

# 就職内定者との集い

2023年(令和5年)7月25日火曜日

沖英寮には3人の大学4年生がいます。これまで、就職活動に力を注ぎ、全員就職内定を勝ち取りました。内定を勝ち取るまでには複数の企業を訪問したり、面談、Zoom会議等を繰り返しました。就職先は都内のグローバル企業、沖縄県にある大手通信会社、世界で有名なアパレル関係です。

**沖縄県内ではなく、東京都に進学し生活費もかかり多額の経費を費やしています。「大学卒業」は通過点でその先にある「就職」こそが大切であると伝えています。(寮監)**



一人ずつ10分以内で内定確定までを報告しました。沖英寮で寮長を務め寮祭に取り組んだことや、高校時代のアメリカ留学の経験を武器にしたこと、とにかく、機会あるごとに企業を訪れ顔と名前を覚えてもらったことが大きかったと話していました。その後、質問コーナーへと進みました。

後輩である寮生から「大学の講義が生かされたことはありますか？」の質問に「ゼミにてその場で課題を与えられ3分間で説明する場面は効果がありました」、「面接の質問にどのように対応しましたか？」には「とにかくコンパクトに自分の意見をまとめること」、「沖英寮での生活は役に立ちましたか？」には「寮生活では共同生活、規則遵守、仲間との活動などが理解してもらえ良い印象を与えたと感じている」等と回答がありました。



**集いの始まる前は3人とも少々緊張気味でした。話合いを終えて1年生からお礼の言葉、後輩からプレゼントがありました。みんな笑顔、また、終了後も食堂に残り、ざっくばらんに遅くまで会話が続けていました。**

**6月から新しい仲間が入寮しました。(1年間マンション暮らしで2年生からです。)**

私は1年間の一人暮らしを経て今年から入寮しました。一人暮らしと寮生活を経験し、生活していく中で寮生活はやはり、人とのコミュニティーを作れることが一番いい点だと思います。一人暮らしの場合、自分の大学のコミュニティーでしか物事を見ることができませんが、寮であれば、他の大学とのコミュニティーを作ることができます。そして、視野を広げることができます。

私が大学に入学したときはあまり大学を楽しみませんでした。同じ出身地の人が大学に誰もいない環境は心がぼっかり空いたようでした。でも寮ならそんな悩みを共有できる仲間がいます。私が抱っていた大学生はみんなで遊んで楽しんでいるイメージでしたが、実際は違い、楽しいというイメージとは少しかけ離れていました。だからこそ、そんな時に不安な思いを打ち明けられる人がいることはとても気持ちよく、同時に心を強くしてくれると思います。特に、東京での生活は沖縄の生活とは大きく異なり、戦いの連続です。正直言って輝いている生活は送ることができません。(笑笑)今まで経験したことのない壁にぶつかり絶望を感じ、落ち込んだり、悩んだりすることのほうが多いです。そんな時に分かり合ってくれる存在がいることは生活を送る上でとても大きな励みになります。また、学生のうちに世田谷に住めるのはとてもいいことだと思います。将来、こんなところに住みたいと思わせてくれるきっかけとなるような場所です。

今、とても充実した生活が送れています。



MHさん  
帝京大学  
開邦高校出身